

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470700606		
法人名	有限会社 サンテ		
事業所名	グループホーム やまぶき		
所在地	三重県松阪市駅部田町473番地		
自己評価作成日	平成24年9月9日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyouvoCd=2470700606-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 9 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

脳トレーニングや歩行動作向上の為の個別訓練している。
食事は、栄養士・調理師により、利用者の好みを取り入れ、旬の野菜や果物を利用者に触れさせ、出来上がった惣菜を、一人一人の顔と近付けて、色や匂いを楽しんでもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

精神を主体とした南勢病院が母体のグループホームで、心身に対する往診が定期的に月二回あり、入居者及び職員の安心感に繋がっている。また栄養士が常駐しており、カロリー等のバランスを考慮した食事が提供され入居者及び家族から喜ばれている様子が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生活の場に基本方針や理念を掲示し、1か月に1回のミーティングで、話し合いを行っている。 又、状況によりくずれることのない様、心する。 地域で暮らし続けられる支援として、外出や散歩(買い物)の機会を出来る限り作っている。	理念には昨年「地域密着」が追加され、ケア会議で随時確認しながら、本人のペースで「明るく楽しく」を心がけて実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、町内の清掃、バザー等に協力し、散歩時には積極的に声をかけさせてもらっている。	事業所として自治会に入り、自治会の様子が分かる「回覧版」を回してもらったり、職員が地域の清掃活動に参加して交流している。日常的には、散歩や買い物に出かけて「声かけ」を積極的にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験学習を年に1回受け入れ学生に認知症のお年よりを理解してもらえよう、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活状況やケア等報告し、サービスの質の向上の為に貴重な意見や対応方法、助言をいただいている。	形式に捉われず気軽に関係者に参加して頂き、ほぼ二ヶ月毎に開催して事業所の状況を報告すると共に、意見や助言を参考にして支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護高齢課の職員や、地域包括センターより参加していただき、色々な情報や意見をいただき、わからない事は質問している。	運営推進会議以外に職員の来所は無いが、認定申請代行や介護保険の相談に行き、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	四点柵による転落事故が発生し、行政指導を受けたことにより、尚いっそうの拘束ゼロへの意識を高め、実践している。	ベッドの4点柵による転落事故の教訓から、「身体拘束ゼロ」の手引きを基に職員に研修し、拘束禁止を実践している。尚玄関は以前から施錠せず見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記の件で、身体拘束、虐待、プライバシー等、内部研修し、その後各自が所感を書いた事により、再々認識がもてた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の1名の方に成年後見人が定められているが、施設側としては、後見人の方とは深いつながりはなく、現在の利用者様は、その必要性がない為、研修には参加していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、利用契約書、終末期における看護指針、利用者が入院した時の取り扱い等を説明、理解、納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様2名が毎回参加されているが、自分の家族についての状態や、生活の様子を聞かれる事にとどまっている。又、家族の面会時に、お気づきの点等を伺っている。	入居者の職員担当を決め、きめ細かい支援に努めると共に、家族の来訪時には管理者も入り意見や要望を聴いている。来訪の少ない家族には、見直したケアプランを送り、意見や要望を記入して返送してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを行うが、必ず全員出席ではない不参加者は、意見用紙を提出してもらっている。内容により参加者の意見を聞きながら、即解決できるものは行い、設備や必要な購入品、人事に関しては、管理部長に相談している。	入居者の状況について、職員担当毎に「モニタリング」に基づき管理者を含めたケアプラン会議をしており、職員全員で共有する為に不定期であるが毎月一回のケア会議を開催している。	ケア会議と共に職員から意見や提案を聞く職員会議を定期的に開催し、管理者からの指示を徹底したり、提案に対する反映の状況を話し合える機会を設ける事が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇は制限されず取得出来、年一回昇給と年二回賞与あり。 健康診断は年一回、夜勤者は年二回実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格所得等個々の目標に向える様支援している。 外部研修については三重福祉連携事業松阪ユニット・グループホーム部会・三重地域密着型サービス協議会等の主催には、約2名は参加し、参加後伝達講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記の3つの研修会等で、他施設の職員との交流を通じて運営や活動状況等を話を聞き、参考にさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでの日が浅い為、本人の不安、混乱を軽減出来るよう、スタッフは笑顔や優しい表情、親切なおもてなしが出来るよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活環境等を家族から情報収集し、職員は本人の今までのスタイルを変えない支援をする事を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と担当ケアマネージャーと相談し、他のサービスという選択肢も含め相談する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、各人が出来る事(掃除、洗濯、洗濯干し、及びたたみ、調理の下準備(野菜洗い・ゴマすり)、おはぎ作り、カーテンの開閉、畑の収穫、花の水やり)等、共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時は、本人と家族の潤滑油になるように心がけている。 字の書ける人は施設から送信する暑中見舞い、年賀状等を書いてもらい、一言コメントを入れている。 利用者の一番好きな人(孫、息子)等、月1回返事がくるように内容を工夫し、手紙を書いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人の面会等があり、一緒に外出したりし、ずっと良好な関係が続いている。	系列の通所介護事業所利用者との交流や、近隣の食品スーパーへの買い物で馴染みの関係維持の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の心身の状態、気分、感情の変化をキャッチし、入居者同士が喧嘩や嫌な思いをさせない様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設のサービス利用(契約)の終了とは、施設に戻れない状況の病氣入院と、死亡であり、その入院中は担当者が適時お見舞いに行く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思が伝えられる利用者は、プラン作成会議に参加して頂き、本人の思いや困っている事を聞き、計画に組み入れている。 表出困難者には家族様の意見を組み入れる。	三ヶ月毎に心身の状況について入居者との面談を管理者が行い、身体状況や課題と対応についてアセスメントシートで確認してケアプラン見直しに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本的には家族の情報をもとに本人に話を伺う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らしの中で、心身の状態に応じて、各人の生活サイクルの中、仲間と出来る事と、個々に出来る事を計画に取り入れ実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のサービス担当者会議にて援助が施設サービス計画の目標やケア内容に相違ないかをモニタリングし、新たな課題や利用者の状態の変化を会話の理解が出来る利用者と共に作成する。	基本的には三ヶ月毎に入居者別担当者が介護計画書の支援内容に基づくモニタリングを行い、ケアプラン作成担当者に提出し、管理者が確認のうえ新しい介護計画書を作成し、家族に確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに心身の状態、バイタル、行動障害、エピソード、本人の言葉を記録し、全ての職員が共有し介護に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望に柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のバザー、外食、花見、美容院・理髪店等の地域資源を活用し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の病状に応じ、かかりつけ医、及び協力病院、在宅医療医師の往診等に対応している。	遠方からの入居者は家族の要望を聞きながら、事業所の協力医で受診しており、その他の方は以前からの「かかりつけ医」で受診し、出来る範囲で事業所が送迎等の援助対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調やささいな表情の変化を見逃さないよう早期発見に努める。 変化等に気付いた事があれば、直ちに看護職員に報告し、適切な医療につなげる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、担当医及びケースワーカーと話す機会をもち、可能な段階でなるべく早く退院できるようにアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては他の医療機関に依頼をしていたが、在宅医療医師の協力を得られ、又職員の協力もあり、看取り介護の取り込みが出来るようになった事で、外部研修への出席や、内部研修を行う。	入居者家族の要望や在宅医師との支援体制が出来、看護師が常駐している事もあり、今年から「重度化や終末期に向けた指針」に基づき、職員の研修を行い対応出来る体勢が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月 消防署の協力のもと火災訓練、9月 三重県地域密着型サービス協議会による三重県一斉の防災訓練(大地震)を想定し、駅部田町の児童公園一時避難場所まで全員避難した。毎月15日に避難訓練を実施している。地域との協力体制は整っていない。	火災に伴う屋外への避難訓練や地震想定「避難地」への避難訓練を実施している。	地震や火災を想定した二階からの避難方法を検討すると共に、「避難地」から市が指定の「避難所」への避難道路の安全確認が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づきどのような場合であっても崩れてはいけないという自覚はあるが、利用者様の攻撃的な言動等もあり、対応に苦慮する事もある。対応困難な場合は一人で無理せず職員を交代して援助している。	プライバシーの確保については「理念」にも掲げており、入浴や排泄支援で常に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の本人の言動や表情を見ながら寄り添い傾聴し共感しながら本人の自己表現が出来るよう支援している。表出できない人には、傍に座り楽しそうな表情や笑顔アイコンタクト体に触れる等で今の満足度を感じ取る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方についてデザイン出来る利用者は殆どなく、職員が利用者様が楽しんで、声が出せ、笑顔がみられるレクを提供する。 本人の帰宅願望が強い時には、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、利用者が決めているが選ぶことが出来ない人は、職員が用意し、本人に声かけをしている あまり適切ではないものを身に付けている場合は助言する。 外出や退院時にはお洒落に気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備が出来たら栄養士が利用者一人一人に全員分を鍋ごと見せて、「これ美味しそうやろ」と匂いも嗅いでもらっている。 手伝いの出来る利用者様は野菜を洗ったり、剥いたり、冷やしたり、片付けたりしている。	食事のサポートを要する方が4～5名で、職員が誤嚥に配慮しながら対応している。栄養士と共に買い物に行く機会もあり、好みを聞きながら一人ひとりの「力」を活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が利用者様の好みを考慮の上、献立作り調理師と共に食事を作り、歯のない人や、嚥下困難者は食事の形体を考慮している。 水分は1日1000ml以上を目標にしているが、到達出来ない人には、こまめに摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、歯磨きは声かけし励行している。 能力に応じて職員は見守り介助、義歯利用者はポリドントにつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	9名中8名の方は、尿意・便意の有無にかかわらず、トイレに時間的に誘導している(日中)。	布パンツの方4~5名を含め、排泄実績チェック表と時間設定に基づきトイレ誘導して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし、各個人の排泄パターンを把握し、便秘の方にはバナナやヨーグルト、水分量を増やし、それでも効果がなければ緩下剤を適量使用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は午前(夏場)としている、週2回全員拒否や身体上の都合で入浴出来ない時は足浴や全身清拭で対応している。	週二回で午前中対応を基本にして、体調により柔軟に支援している。一名の男性入居者は最初か最後に入浴してもらい女性との配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間は決めず、一人一人のペースで入眠している、日中もお昼寝が必要な人はしている 居室温度設定は基本的に27~28℃設定、巡視時温度管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は薬剤情報提供書を個人ファイルに綴じ、全職員がわかる。 処方の変更時は申し送りノートに記載し、副作用及び状態の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割意識が強く現在でも仕事への意欲が旺盛でじっとしている事が嫌いな人には無理のない程度に職員の仕事の手伝いをして頂き感謝の言葉かけをしている。気分転換には散歩の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来る限り玄関に出て、外気に当たる事、又、散歩をする事を心かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	9名中7名はお金は所持していないが1名の方はお金がないと不安な為2千円所持されているがお金に関して足りない、なくなった等被害的な言動が絶えずある、もう1名の方は、5千円所持されているが、これを所持している事で安心されている、他の利用者はお金への関心なし。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から電話をする事が困難な為、週1回必ず家族様の方から電話をかけてきてもらう様、協力を依頼し、家族の声が聞ける様、計画的にくみ入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に空調、照明には注意をはらっている。又、感性の働きかけとして、壁には季節に応じた折り紙を貼ったり、季節の草花を飾っている。食事時には癒しの音楽を流している。	食堂兼居間から外に出られる掃き出しがあり、スロープを経て避難対応が可能となる様に配慮されている。壁面には入居者と共に作った折り紙やイベント等の写真が飾られ、家族や来訪者との話題提供の材料となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナーがあり、気の合った者同士でテレビを見たり、会話したりしているが、その時の気分に合わせ居室に入って過ごされる時もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様に家庭で使い慣れていた品物、好みの物を持ってきてもらうよう、お願いしている。(家族の写真、装飾品等)	ベッドとクローゼットが事業所として設置され、思い出やそれぞれの好みに応じた物が飾られ、特徴のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の出来る事、わかる事は職員は共通認識し、声かけ・見守り・援助を行ない環境設備をし事故のない様に自立を促している。		